

人生の大切さをかみしめ 自分の生き方を探し見つけていきます

—平成24年南丹市成人式—

1月8日、園部公民館で二十歳の門出を祝う成人式を挙行了しました。スーツや羽織袴など、晴れ着姿の新成人310人が出席しました。会場では、小・中学校時代の恩師や多くの来賓の皆さんが若者の輝かしい前途を祝福しました。



誓いの言葉を述べる木山さん(▲)と馬淵さん(▼)



今年の成人式は、平成3年4月2日から平成4年4月1日生まれの南丹市在住者391人と、市内の小・中学校を卒業した方などで、出席を希望される方々を対象としました。

式典で佐々木市長は、新成人に対し「二十歳になられた皆さんには、社会の一員として地域社会や国の発展のために貢献し、日本の未来を担う責任が生じます。今後、ふるさと南丹市に誇りと愛着を持ち、積極的にまちづくりに参加いただき、共に新しい時代の南丹市を築いてもらいたい」と述べました。

新成人を代表して、馬淵翠さんと木山愛彩さんの二人が「昨年の大震災のニュースに衝撃を受けました。普段の生活がとても幸せであることを実感し、自分の人生を大切にしなければと強く思いました。これから私は、私の生き方を探し見つけていきます。二十歳を迎え、さらに成長していく私たちをこれからも見守ってください」と誓いの言葉を述べられました。「誓いの言葉を作成した馬淵さんは、「私は、ずっと親に心配されながら今まで過ごしてきました。春から親元を離れて一人暮らしをします。ずっと支え続けてくれた両親をはじめ、周りの皆さんに対する

感謝の気持ち、そして自分自身の決意を形にしたいと思い引き受けました」といきさつを語ってくれました。

式典終了後は記念撮影を行い、人生の節目のきらめく姿を写真に収めました。地域ごとに行われた懇談会では、「先生にはよく怒られたけど、今は感謝しています」と笑顔で恩師に感謝を伝える新成人の姿や、かつての友人との再会を懐かしむ姿があらこちらに見られ、会場いっぱい笑顔が溢れていました。

◀久しぶりに会う友人、恩師と記念撮影



▶タイムカプセルを開けて、かつての自分を振り返る出席者